埋没林：埋没林について

小豆原埋没林展示は 3 階建ての新館のギャラリーで、4,000 年も埋もれていた巨大なスギの森があった古代の世界を再現している。
三瓶山の最後の大噴火により砂や礫で覆われた斜面が崩壊し、北側の斜面を飲み込んだ。火山灰が流れ込み、小豆原谷と古代の森林が埋め尽くされるまで辺りを覆った。

1983 年に、自然館から北西に約 3 キロ離れた場所で巨大なスギの上部が発見された。1990 年にはさらに発掘が行われ、地下にまだ 30 本の木が立ちながら埋もれていることがわかった。森は主にスギが占めていたが、ケヤキ、セイヨウトチノキ、アラカシも生えていた。森は元々あった場所に残っており、そこに現在は三瓶小豆原埋没林がある。この埋没林展示には、小豆原に埋もれていた木の何本かがあり、高さ 10 メートル、根本の直径が約 2 メートルの巨木も含まれる。また、1983 年に初めて発見された木の輪切り標本も展示されている。木が生きている間は 1 年につき 1 本増える年輪が 443 本ある。他にも、森を埋めた噴火、埋没林の発見、古代の生態系についての科学的な情報が展示されている。